

子どもを知ろう

～「学習力」向上の基礎～

- 1 「学習力」の必要性
- 2 子どもの特性
- 3 「学習力」向上のルール
- 4 「学習力」チェックリスト例

「学習力」の必要性

- 自ら進んで学習に取り組むことのできる子どもたちは、学習の規律を身に付けています。具体的には、時間を守る、よい姿勢を保つ、机上进行整理するなど、当たり前のことをきちんと毎日繰り返すことができるのです。
- 私たち教師が学力向上について議論する際、子どもたちが「獲得した力」を取り上げることが多くなります。その一方で、子どもたちの学習に向かう意欲や態度、学習方法など「学習に向かう力」の育成も図っていくことが大切です。
- 時間や場所、指導者等が変わっても、自ら進んで「学習する力」のことを「学習力」と呼び、義務教育9年間を通じて、根気強く指導していくことが、子どもの未来を切り拓く近道です。

学 力 = 獲得した力 + 学習に向かう力(「学習力」)

— 子どもに感じ取ってほしいこと —

- 「学習力」が身に付くと、授業が楽しくなる。
- 「学習力」が身に付くと、学力が向上する。
- 「学習力」の高い学級では、みんなが伸びる。



- 学習規律を守り、進んで学習するのが当たり前だと思える学級にしましょう。
- 学習規律が乱れると、居心地が悪いと感じる学級にしましょう。
- 学習規律が守られていることを評価し、子どもにフィードバックしましょう。

- ★ 学年始め、学期始め、月始め、週始めなど区切りを大切にしながら、だれにでも理解できる平易な言葉でめあてを定め、その達成状況についての評価をその都度行ってください。
- ★ 決めたことは、全員が達成できるまで根気強く指導することが大事です。あきらめず、凡事徹底の精神を貫いてください。

子どもの特性

- 子どもは、鋭い洞察力で、指導者を実によく観察しています。ぶれない指導の軸をもった指導者を信頼し、安心して授業に臨みますが、時や場、相手によって指導の軸がぶれる指導者には不信感を抱き、決して心を開くことはありません。
- 子どもたちは、たいへん利口で、自分を高めたいと思っています。やるべきことが明確で、努力すれば達成できる状況において、努力を惜しみません。しかし、適切な評価を受けなければ、次第にやる気を失い、利口なだけに楽な道を探し始めます。
- 始めはやりたくないと思っても、仲間が熱心に取り組んでいれば、やり始めます。そのうちに夢中になり、できるところまでがんばります。壁に当たっても、指導者や仲間に励まされ、乗り越えていきますので、根気強く見守ることが必要です。

「学習力」の向上 = 個人の心の成長 + 集団としての規律の定着

— 「学習力」を高めるために～次の点に気を付けましょう～ —

- 日常生活でよい習慣を身に付けさせる。

授業開始の時間を守る	→	学習の準備ができるようになる
授業終了の時間を守る	→	集中して学習に取り組むようになる
姿勢が悪いのを容認しない	→	頬杖をついたり机に伏せたりする子がいなくなる

- 環境整備に細心の注意をはらいましょう。

落書きはすぐに消し、常に環境美化に心がける。
器物の破損を見逃さず、直ちに修繕する。
厳しい指導をしたならば、その後を必ず見届け、できるようになった姿を価値付ける。
場所や物を提供したら、片付け状況を必ず確認し、常にあるべき物があるべき場所に定める。



- ★ 全てを子どもに任せてはなりません。適切な管理の下で、子どもは優れた能力を発揮します。ただし、管理はあくまでも手段であって目的ではないことに留意してください。
- ★ 子どもの行いを積極的に評価しましょう。指導と評価を粘り強く繰り返すことが、子どもの学習力を高め、人に見られていない場面でも正しい行動をとることができるようになります。

「学習力」向上のルール

1 指導者みんなが同じ方向性・意図を統一

同じ行動をとっても、何も言われなかったり、叱られたりすれば……
子どもは、何をすればよいのか、正しい判断できなくなります。
何がよいことで、悪いことなのかを理解させましょう。
よいことは、みんな褒め、いけないことはやり直させることを徹底しましょう。

2 たくさん褒めて、価値付ける

褒めるときは、心から感情を込めて、子どもの目を見て表情豊かに伝えてあげましょう。
もし、1つ厳しく叱ることがあったなら、できたことやよいことを見つけて2つ褒めてあげましょう。
子どもにとって、始めは指導者からほめられることが最大のご褒美です。
それが最終的には、指導者への信頼や尊敬へと高まっていきます。
できるだけ子どもの小さな変化をとらえては、価値付けていきましょう。
子どもへの愛情を言葉にして伝えるように努めましょう。

3 叱るときは、本気で 短く タイミングよく

中途半端に叱っても子どもには何も通じません。
子どもの微かなサインを見逃さないようにしましょう。
弱い心が出た時、または出ようとしている時に、厳しく、短く、目を見て叱りましょう。
だらだら話すのは無駄です。前のことを蒸し返すのはもってのほかです。
時間が経過したことに対して叱っても、叱られていることの意味は伝わりません。
叱る言葉にも子どもへの愛情を込めるように努めましょう。



- ★ 学習規律は、一朝一夕に定着できるものではありません。
ルールを示し、それをきちんと守ることが心地よいと感じさせる
ことが必要です。
- ★ ルールを守らないことが格好悪いと指摘できるような学習集団
をつくってください。

「学習力」チェックリスト例

授業開始前

- 授業の開始時刻を守っている
- 学習の準備が整っている
- 姿勢を正して学習開始の挨拶ができる

授業中

- 人の話を最後までしっかり聴いている
- 背筋が伸びている
- 「はい」と返事ができている
- みんなに聞こえる声で発言している
- 丁寧な言葉で話している
- 私語が無く、学習に集中している
- 丁寧な文字でノートを書いている

授業後

- 姿勢を正して学習終了の挨拶ができる
- 学習道具を片付け、次の準備をしている
- 教室を移動する際に落ち着いて廊下を歩行している

その他

- 鉛筆やはしを正しい握り方で使用している
- 落書きが一つもない
- ゴミが落ちていない
- 机の中を整頓している
- 教室のロッカーや空き教室を整頓している

※ チェックリストを活用して、気になる項目がある場合は、自分一人で対応しようとせずに、同学年や各主任等の先生に、速やかに相談しましょう。子どもの学習力は教師みんなが育てていくものです。学級担任が一人で抱え込んではいけません！

学級崩壊深刻度表(抜粋)

レベル	学級の状況等	備考
A10	暴力やいじめが頻発し、子どもや教師が身の危険を感じる。	担任交代など学校全体の対応が必要となる状況
A9	日常的に教師に反抗がみられる。	
A8	机など備品を粗末に扱う。	
B7	私語や逸脱行動で授業にならない。	担任一人では対応が難しい状況。
B6	授業時間外に口げんかなどが多発する。	
B5	無視や物隠しが頻発する。	
C4	常にざわついている。	さほど深刻ではない状況
C3	教室が乱雑になる。	
C2	忘れ物が目立つ。	
C1	言葉遣いが悪くなる。	

※小谷川元一・東京福祉大学准教授による「学級崩壊深刻度表」による